

## 校内スケッチ ～全校児童との4月の約束～

はきものをそろえると 心もそろろう 心がそろうと はきものもそろろう  
ぬぐとくにそろえておくと はくとくに心がみだれない  
だれかが みだしておいたら だまって そろえておいてあげよう  
そうすればきっと 世の中の人のこころもそろうでしょう

上の詩は、長野市の円福寺の住職であった藤本幸邦(ふじもとこうほう)さんが作った「はきものをそろえる」という詩です。

さて、4月8日の始業式の日、児童達に、この1年間を通して、特に励んで欲しいこととして、二つの行為を述べました。一つ目は、「挨拶」。もう一つは、「下足室の靴を揃える」ということです。

私が、教諭時代に大変お世話になり、今、現役を終えられた先生方とコロナ禍前まで年に一度、定例でお会いさせていただいておりました。その席でよく拝聴したのが、学校教育で児童達に身に付けるべき大切なことの究極は、「挨拶」と「履物を揃える」ということ。今まで、全国各地の沢山の学校を訪問して来たが、その学校の様子は、校内に数時間滞在するまでもなく、その学校の児童の挨拶と下足室を見ると分かる、口を揃えておっしゃっていました。下の写真は、昨日の2時間目の授業中に撮った、誰一人としない下足室の写真です。落ちていた靴が一つもない。また、ほとんどの児童が靴のかかとを揃えて置いている。この様子に感心しました。

「挨拶をする」と「履物を揃える」という行為は、「自分を見つめる」・「自分自身を振り返る」という行為に繋がると思います。これらがきっと、自己肯定感や自信。そして同時に他者への思いやりや優しさの育ちとなるのでしょうか。継続が肝心です。



挨拶と

下足の靴は

バロメーター

人と同じように物も大切にしよう！